

陸命丁第四三號

第十六軍命令

二月十一日
カムラン

一 軍主力ハ月日西部瓜哇ニ上陸シ速カニ之ヲ

攻畧セントス

二 第二師團長及軍兵站部長ハ別冊「西部

瓜哇作戰ニ伴フ兵站業務実施要領ニ基

キ各其ノ後方業務ヲ實施スベシ

三 細部ハ軍參謀長及各部長ヲシテ指示セシム

軍司令官今村均

1190

下達法要百口達後印刷交付

配布區分 第二師團 軍隊備隊 軍防空隊

軍通信隊 軍鐵道隊 軍兵站部

第三師團憲兵隊 第一場陸團

南方軍 部内各部課

別冊

西部瓜哇作戰に伴う兵站業務實施要領

第一運營ノ一般要領

一 軍主力ノ作戰初期使用シ得ル主要軍需品
ハ彈藥約三分ニ會戰分燃料約ニヶ月分糧秣
衛生材料約首數醫資材約ニヶ月分トス

47

二 第二師團ハ上陸直後一時其ノ後方部隊又携
行軍需品ヲ以テ自ラ其ノ後方業務ヲ實施シ軍
兵站部ノ上陸ニ伴ヒテ或ルハク速ニ軍直轄管區ノ
兵站業務ヲ之ニ委譲ス

其ノ時機ハ概ネH日ト豫定シ別命ス

三 師團作戰地域ト軍直轄管區トノ境界ハ

H日以降概ネヲテニ「河ノ線ト線トハ第二師

團ニ屬ス」別命ス

四 軍兵站部ハ概ネH日以降主カヲ以テ「ホジヨ

ネガラ」附近一部ヲ以テ「メラク」附近ニ上陸シ先

ツ速ニ各上陸地附近ニ軍需品ヲ揚陸整備シ

次イデ概ネH日頃迄ニ「ホシヨネガラ」及「レゴニ」附

近ニ補給ノ基奠ヲセラシニ兵站地ヲ設定シH

日以降軍直轄管區ノ兵站業務ヲ第二師團

ヨリ継承ス

軍兵站部ハ當初「セラ」ニ位置ス

五、作戦ノ進捗ニ伴ヒ或ルハ夕速ニ「バタビヤ」ニ兵站
主地ヲ設定ス

六、作戦初期ニ於ケル軍兵站部ノ編組附表第
一ノ如シ

七、各部隊ハ極力作戦地域内ノ現地物資ノ活用

43
ヲ圖リ常ニ大局ニ立脚セル経済的現地自活ニ徹
シ以テ運送軍需品ノ節減ニ努ム

八、作戦地ニ於テハ軍ノ通貨トシテ「ギル」トシ「軍票」ヲ使用シ

其ノ價格ハ日本円一月ニ付一キルグロトス

第二 補給

九 第二師團並ニ軍直轄部隊ハ上陸當初努メテ
多クノ軍需品ヲ携行シ自ニ其ノ補給ヲ實施ス

其ノ携行標準彈藥武器ハ部隊交付ノモノ悉皆

燃料脂油~~並~~日分糧秣其他概ネ~~並~~日分トス

之ガ爲携行糧秣ノ不足ハ別途軍ニ於テ充足ス

一〇 各部隊携行軍需品ニシテ自隊ニテ携行シ得

サル過剩品ハ揚陸点附近ニ於テ關係軍補給廠ニ

引継クモノトス

二 本作戰ニ於ケル彈藥一會戰分ノ標準、燃料、脂
油及糧秣ノ補給定量附表第二其ノ一ヲ至其ノ三ノ
如ク其ノ使用區分ハ別命ス

三、H日以降第二師團及軍直轄部隊ニ對スル補給
実ヲ「レゴン」ニ設定ス

但シ狀況特ニ輸送機關ノ狀況ニ依リ一部ヲ「セリン」
ニ推進スルコトヲ豫期ス

三、狀況特ニ海上交通之ヲ許セバ軍需品、大部ヲ海上
輸送ニ依リ前送シ補給基點ヲ推進スルコトアル
ヲ豫期ス

第三 警備、防空、交通及通信

一、兵站警備及防空、重要ハ當初「ホシヨネゴロ」附近

トシル后「ホシヨネゴロ」^{（伊豆）}セラニ及交通ノ要點ニ轉移ス

二、軍濠備隊ハ當初主カキテ上陸兵及軍要兵站地

警備ヲ担任シ兵站地區警備隊ノ上陸ニ伴フ連

キニ支代ス

三、上陸兵特ニ「ホシヨネガラ」及「チレゴシ」ノ防空ハ軍

防空隊ノ任トシ兵站地區警備隊及軍濠備隊

ハ密ニ之ニ協カス

ハ、附近上陸兵防空ノ爲第二師團ハ特ニ一部
 少防空部隊ヲ用地ニ残置スルモノトス

三、交通整備ハ、6日迄ハ第二師團長ヲ以降軍
 直轄管區ニ於テハ軍兵站部長之ヲ継承ス
 其ノ細部ハ軍兵站部長之ヲ規定ス

六、軍直轄管区内ノ通信ハ軍通信隊長之ヲ統
 制シ主トシテ軍通信隊自ラ之ニ在シ「ホシヨネゴロ」
 「メラク」^カ「レゴン」^セ「ラン」間ニハ爲シ得レバ兵站專
 用通信網ヲ構成ス

第四 衛生

元 作戰初期ニ於ケル患者收療後送_レ爲病院
船ニ隻軍主カト同行ス

第二師團長ハ所要ノ衛生機関ヲ以テ右病院船
ノ陸岸ニ於ケル衛生業務ヲ援助ス

二 軍兵站部長ハ第十六軍臨時兵站病院ヲセラシ
附近ニ開設ス

三 軍兵站部長ハ速ニ第三野戰防疫給水部ノ主
カヲセラシ附近ニ進出セシメ主トシテ軍直部隊ノ
防疫給水ニ任ゼシム

三 病馬ノ收療ハ師團自ラ行ヒ要スルハ第十九軍

馬防疫廠ノ大部ヲ配屬ス

第五 其ノ他

三 軍兵站部長ハ其ノ指揮下部隊ヲ以テ速カニ
物資收集班ヲ編成シ主ニシテ勞力輸送材料及
燃料糧秣ノ收集ニ任ゼシム

四 軍政實施(軍)軍政部之ニ任ズ

附表第一

軍兵站部ノ編組

長 參謀副長 原田少將

軍司令部ノ一部

第四十三兵站地區隊 (一部欠)

自動車第二十八聯隊 (一部欠)

独立自動車第三十九大隊 第三中隊

独立自動車第百二十六隊 (約半部及自動車欠)

第十六軍臨時兵站病院

第二十二野戰防表給水部 (一部欠)

第十九軍馬所表廠 (一部欠)

第二十四野戰兵器廠 (一部欠)

第二十四野戰自動車廠 (一部欠)

第二十四野戰貨物廠 (一部欠)

軍兵站部ノ編組

附表

會戰分種藥數量表

考	備	會戰分種		會戰補給率	備要
		分種	數量		
三臨檢別二定 三臨檢別二定 三臨檢別二定	二十四日	步兵
	二十五日	步兵
	二十六日	步兵
	二十七日	步兵
	二十八日	步兵
	二十九日	步兵
	三十日	步兵
	三十一日	步兵
	一月一日	步兵
	一月二日	步兵
	一月三日	步兵
	一月四日	步兵
	一月五日	步兵
	一月六日	步兵
	一月七日	步兵

自動車用燃料補給定量区分表

備考	丙			乙			甲			区分	
	ガソリン	重油	揮発油	ガソリン	重油	揮発油	ガソリン	重油	揮発油	自動車	軽自動車
一 補給定量ノ何レヲ用フベキハ 二 本表ノ数量ニ一日一車ノ所要トス	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	三・五	八・九
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	四・〇	九・八
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	一・〇	八・九
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	十・五	九・八
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	三・五	九・八
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	三・五	七・九
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	三・五	六・六
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	三・五	五・五
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	四・〇	五・五
	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	燃料ノ百分ノ一	二・〇	五・五

糧秣補給定量區分表

品目	定量區分			
	甲	乙	丙	丁
乾パン(鹽梅三種共)	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇
雜糧	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
雜糧味増	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
携帶燃料	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
携帶馬糧	三六五	三六五	三六五	三六五
精米	八七〇	八七〇	八七〇	八七〇
ビスミン補給食	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
尋常罐詰肉	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇
粉牌油	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
粉味増	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
食塩	五〇	五〇	五〇	五〇
大根野菜(海藻)	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
梅干	四五〇	四五〇	四五〇	四五〇
香辛料	三五〇	三五〇	三五〇	三五〇
茶	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
甜味品	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
酒	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
煙草	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
馬糧用穀類	一三三〇	一三三〇	一三三〇	一三三〇
生糖末	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
馬糧用食塩	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
合計	六九二〇	六九二〇	六九二〇	六九二〇
備考	二六八〇	二六八〇	二六八〇	二六八〇

一補給定量は、何れも用ふるに、作戦及補給、現況に應じて、必要に応じて、
 二患者食、セラニ、防痲、携帶口糧、心身補給
 三馬糧用食塩、現地調達
 四合計生量、酒及煙草等、下合、ス

陸軍省

治作命丁第四二號ニ基ク參謀長指示

依命指示ス

第一兵

軍主カハ作戰初期ノ所要トシテ命令ノ如ク軍需品ヲ保有スルノ外凡テ現地自活ニ委セラレアリ

作戰上必須トスル軍需品ニ就テハ之ヲ惜シムニ非ザルモ各部隊ハ極力軍需品ノ節用愛護ニ努ムルト共ニ極力現地物資ノ利用ヲ策シ經濟的現地自活ニ徹底シ以テ追送軍需品ノ縮減ニ努ムルヲ要ス

尚現地物資ノ取得ニ關シテ軍内ハ勿論廣ク南方

1205

軍全作戦地域ヲ通ジ之ガ交流ヲ圖ラザルベカラザルト
共ニ更ニ此ガ後送ヲモヒ要トスルモノアルベキヲ以テ軍ニ
自体ノ利用ノミナラズ常ニ廣ク軍全般ノ活用ニ留意
シ之ガ處置ヲ適切ナラシムルコト緊要ナリ

補給請求ニ方リテハ作戦ノ推移ニ應ズル所要ヲ察
前ニ洞察シ補給實施ニ相當ノ時間的餘裕ヲ保
スル如ク長期ニ互リ計画化シ集約的ニ請求セラレ度
此ノ際特ニ補給ヲ要スル最終時期ヲ明示セラレ度

第二 兵器

兵器勤務ハ特ニ指示セラルルモノノ外各兵器操典作

1206

戰要務令、戰時高等司令部勤務令、戰時兵器部
 勤務令、軍兵站勤務令、戰時補充令ニ據ルモノトス
 又兵器要務書同細則、規定ハ勉メテ之ヲ運用スル
 モノトス

二 今次作戰ノ特質ニ鑑ミ兵器ヲ尊重シ之ヲ活用
 スルコトニ關シテハ特別ナル努力ヲ必要トス

軍主カト離隔シテ作戰タル部隊ニ於テ益然アリ
 而シテ幹部自カラノ率先研究ト適切ナル教育及
 新ノ監視監督トハ之カ目的完遂ノ爲必須ノ要ル
 ルヲ田心ヒ之等ノ實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度

1207

殊ニ特殊ノ氣象ニ關スル對策ニ於テ然リトス

又兵器的資材ノ保護節用ニ就キテハ當初ヨリ特

ニ之カ美風涵養ニ努メラレ度

三 兵器ノ取扱使用ニ關シテハ各種兵器ノ取扱法

及兵器保存要領等ニ據ルバキモ熱地特殊氣象

ニ應ジテ取扱使用ニ就キテハ熱地ニ於ケル兵器使用

上ノ注意點也ニ於ケル彈藥取扱ノ參考及熱地ニ於テ

ノ運送取扱ノ取扱ノ參考ニ準據シ特ニ防濕所宜

ノ點ニ注意ナカラシムラレ度

而シテ國軍ト今次作戰地域ニ於テハ末ダ兵器

的經驗ナキモ、尠カサルヲ以テ幹部ハ適時適切ナル對策ヲ講ジ兵器威力發揮ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ將來ノ參考トナルベキ事項ニ關シテハ細大漏スエトナク報告スル如クセラレ度

四、彈藥ノ手入ハ萬難ヲ排シ特ニ時機ヲ設ケテ確實施シ所要ニ應ジ試験射撃又ハ試験點火等ヲ實施スルコトニ勉ムルヲ要ス

又今次作戰ニ於ケル無線通信ノ重要性ニ鑑ミ之カ主要消耗材料ノ保存ニ關シテハ特ニ注意ヲ望ム

五、蘭印軍ノ兵器約情報ニ關シテハ別ニ「蘭印軍

兵器概説及蘭印陸軍ノ編制裝備ニ關スル資料
ヲ參考トシテ配布ス

各部隊ニ於テ更ニ兵器情報ノ收集利用ニ關シ遺
憾ナキヲ期セラレ度

六 各部隊長公常ニ部隊裝備兵器ノ現況把握ニ
努メ各種ノ方法手段ヲ盡シテ之ガ報告ニ努メテ度
又兵器特異ノ事項發生セル場合ハ之ノ前
ニ準ジテ處置セラレ度

第三 經理

一 從來ノ事例ニ徴スルニ作戦軍等ニ於テ戦利品ノ
 處理又ハ占據地域内政治經濟等工作等ニ依
 リ特殊資金ヲ捻出シ有セルモノナシトセザルモ是等
 法的根據ヲ有セザル各種資金ノ部隊保有公蔵ニ
 之ヲ禁止シ緊急止ムヲ得ザルモノハ軍司令官ノ承
 認ヲ受ケ之カ保管出納整理ノ公明ヲ期スル如ク
 留意ヲ望ム

二 非違行爲ノ防遏ニ關シテハ上司ヨリ不断ノ注意ヲ
 喚起シ之カ絶滅ヲ要請セラレアリテ關係諸官亦
 常ニ深甚ナル注意ヲ格致シタル所ナルモ今尚

ノ不ヲ絶タズ作戰軍ノ赫々々武勲ヲ示ス

アルハ洵ニ痛嘆ニ堪ヘザル所ナリ

古來作戰軍ニ於ケル此ノ種事故ノ發生ハ進攻作
戰ヨリ駐留態勢ニ轉移シタル後逐次多發スル傾
向ニ在ルヲ以テ嚴肅ナル軍紀ノ下當務者ノ精
神訓化ノ徹底ト監督指導ノ適正トニ依リ之ガ
絶滅ヲ期セララルル如ク考慮ヲ望ム

作戦地ハ軍ノ進駐ニ伴ヒ急激ナル物價ノ變動
ヲ生ズルヲ恐レアルヲ以テ各部隊ハ上陸
後物價ノ昇騰ヲ防ギ國內物價政策ニ順應シ

テ現地地価を調査し、その結果を以て、戦時地価の安定ニ資スルト共ニ軍ノ物資調達ヲ有利ナラシムルノ
 顧慮ヲ要ス

之が爲上陸ト共ニ速カニ現地地物價ノ調査ヲ爲シ他
 方物價釘付ノ方策ヲ講ズル等ノ處置ヲ望ム

四 作戦地ノ特質ニ因リ戰場給水ニ關シテハ特

ニ絶大ノ努力カラ望ムスベキモ之が實施ニ關シテ關
 係各機關ト密接ニ連絡シ携行資材ノ全機能ヲ
 發揮スルニ努ムルノミナラズ現地所在施設資材ノ
 迅速ナル押收復舊ヲ圖リ給水並ニ製氷給與ニ

二 萬遺骸ナカラシムルヲ要ス

五、上陸作戰時ニ於テ防毒面ハ吸收罐ノ底栓ヲ爲シ且連結管ヲ糾ニテ緊縛シ吸收罐ニ水ノ入ラザル如クスルコト緊要ニシテ從來此ノ處置ヲ怠リ防毒面ヲ無効トセル例アリ

六、軍在戰間並ニ爾後駐留初期ニ於ケル人馬資材ノ收容ノ爲急速ナル新築ハ望ミ難キニ付キ取敢ヘズ努メテ天幕雨覆又ハ既設建物ノ利用若クハ現資ニ依リ應急建築等ニ依リ遺骸ナキヲ期セラレシコトヲ

尚駐留永キ互ル場合ハ新建築ニ就テハ別ニ示サ
ルル筈ナリ

第四 衛生

- 一 患者ノ南佛方面ハ後送ハ運ニ於テ統一實施ス
- 二 環境氣候風土ノ特異性之カ馴化ノ困難並ニ傳染病ノ蔓延等幾多ノ不良條件ヲ克服シ得タル軍隊ニシテ始メテ熱地作戰ニ於ケル戰勝ヲ獲得スルヲ得ベシ故ニ各級指揮官ハ作戰ノ推移ニ伴ヒ各時期ニ應ジ常ニ積極真劍ニ部下將兵ノ人的戰力保持増進ノ爲百戦ノ手段ヲ講ズルヲ要ス

- 三 熱地海上輸送間ニ於ケル体カノ消長ハ上陸戦
 闘ニ重大ナル影響ヲ與フベシ 宜シク部下ヲ督勵
 シ船内歩行訓練船暈豫防食慾増進睡眠確保
 並ニ給水ノ適正ヲ期スルヲ要ス
 更ニ炎熱下行軍ニ伴フ將兵体カノ消耗ヲ極力防
 止シ喝病ノ多發ニ因ル戦カ低下ヲ嚴ニ予防スルヲ要
 四 作戦地ハ瘴癘ノ地ニシテ四時傳染病風土病持
 ニマラリア其ノ跡ヲ絶タズ故ニ之カ防疫防遏ニ對
 シテハ自ら其ノ責ニ任シ部下ノ實行ヲ監督シ併
 セテ熱地ニ於ケル体カ保持ノ命脈トモ謂フベキ給

水ヲ努メテ圓滑ナラシメ特ニ防疫給水ノ普及ト敵
 軍細菌毒物工作ノ制壓ヲナシ以テマラリアノ侵
 襲傳染病ノ多發ニ困リ光輝アル戰果ヲ失墜ス
 ルガ如キコトナカラシムルヲ要ス

五 熱地作戰ハ實ニ衛生作戰ナリ故ニ將兵一般ニ對
 シ作戰並ニ戰鬥ニ伴フ衛生事項ノ普及徹底
 ニ努メ特ニ各級指揮官ノ斯種識能向上ニ就キ
 全幅ノ留意ヲ要ス

第五 馬事

馬事智識ノ厚薄ト馬事關心ノ程度トハ軍馬
 保育衛生ノ良否ヲ左右シ以テ直チニ軍ノ戦力
 ニ及ボス影響大ナルハ過去ノ實戦ニ於テ痛感セ
 シ所ナリ故ニ無言ノ战友タル馬匹ノ愛育ハ其
 ノ隊ノ美風トシテ永クニ堅持スル覺悟ヲ持チ所
 謂馬強ケレバ兵強シトノ人馬一体タリ得ルノ域ニ
 入ラシムル如ク教育指導セラレシコトヲ望ム
 殊ニ熱地ニ於テハ僅少ナル保育上ノ失宜モ終ニ
 挽回シ得サル失態ヲ惹起スルヲ以テ一層周密細
 心ノ注意ヲ拂フノ要アリ

- 二、熱地ニ於ケル輸送ハ馬匹衛生即チ戦力ノ保持
上至難ノ業務ニシテ其ノ適否ハ軍ノ作戰ニ及
ホズ影響百極メテ大ナルヲ以テ馬匹塔載前的確ナ
ル對策ト施設トヲ講究シ統海中ハ厩勤務ノ勵行
厩巡視ノ督勵ニ依リ其ノ愛護ヲ十分ニシ又揚陸後ハ
十分馬ノ疲勞ヲ醫シ以テ馬匹戦力ノ維持向上ニ關シ
深甚ノ注意ヲ拂ハレシコトヲ望ム
- 三、從來ノ經驗ニ徴スルニ馬糧ヲ無爲ニ散逸廢棄シ
或ハ之ヲ雨露ニ曝シテ微敗セシムル等多大ノ國幣ト
勞カトヲ費シ準備セラレタルモノニシテ馬匹ノ口腹ニ入

ルルコトナク徒ラニ浪費セラレアルハ誠ニ惜ムベク又寒心
ニ堪ヘザルトコロナリ斯カル事ハ幹部ニ於テ十分監督
シ當初ヨリ良キ躰ヲ涵養スル如ク著意セラレ度

四 作戰地ハ各種軍用動物傳染病濃厚ニ瀰漫侵

潤シアルヲ以テ作戰用軍用動物ニ感染ノ機會甚カ

ラザル現地ノ狀況ニ鑑ミ之ガ防疫ニ關シテハ其ノ教

育ノ徹底ト予防接種ノ勵行ニ努ムルト共ニ不断ノ

注意ト的確迅速ナル予防手段竝ニ檢疫ト督勵トニ

爲遺憾ナキヲ期スルヲ要ス

此地畜産資源ノ利用開發ハ勿論占領地畜

産行政ノ指導監督ニ關シテハ常ニ深甚ノ留意ヲ持
 ヒ尚又今次作戰ノ特性ニ鑑ミ現地馬糧ノ取得活
 用ニ關シテハ平素研鑽セル専門的智識ト積日ノ
 經驗トヲ傾注スルノ著意アルヲ要ス

第十六軍參謀長 岡崎清三郎

下達法 印刷交付

配布先 岩作命丁第四十二號ニ同シ

1221